

日時	場所	参加者数	内容
30、2/14	公民館	5	・市行政サイドにレクチャー
3/13	〃	13	・公民館運営審議委員会で事業の検討
3/22	〃		・ホームページの構築開始
3/30	〃	7	・協働プロジェクトについての3者打ち合わせ、 ・地域の現状把握の必要性について
4/26	〃	35	・公民館運営会議で協働プロジェクトの取り組みについて
5/13	〃	30	・大学院生（9名）と地元各種団体（21団体）代表者との懇談会
7/18	〃	12	・ワークショップによる「地域課題の洗い出し」とプロジェクトで取り組むテーマの方向性の共有について
8/2	〃	35	・公民館運営委員会で協働プロジェクトの進捗について
10/1	〃	4	・地元観光スポットの知名度把握アンケート作成
10/23	〃	24	・市内公民館主事会議で協働プロジェクトについての情報共有
11/16	〃	35	・公民館運営委員会で協働プロジェクトの進捗について
11/21	〃	4	・まちづくり協力隊との情報交換
31、1/24	岡山	5	・協働プロジェクト中間発表会

1年目の効果

○地域課題の洗い出しの結果

- ・人口減少に伴う少子化高齢化問題
- ・ふるさとへの愛着

以上2点を課題として取り組むこととした

そのために・・・子どもたちが、将来「ふるさとに帰ってきたい」「ふるさが好きだ」

「ふるさが自慢だ」そんな思いを抱かせるために

具体的な取り組みとして「ふるさとのお宝探検隊」実施した結果、子どもたちの目線で、「自分の宝・地域の宝」として子どもたちの親しみのあるものがたくさんあることに気がついた。

大人目線の故郷の宝物に加え、子ども目線の宝物が故郷への愛着に繋がることを改めて知ることとなった。

2年目の方向性

○子どもたちが生まれ育った故郷に・・・

- ・興味・関心をもつ
- ・自分に親しみのあるものがたくさんあることに気づく
- ・自分の故郷を大切に思う心情を育む
- ・ふるさとのために何かしたいという気持ちを持ち、社会の中で思いを実現する

そのために・・・

子どもたちの目線で「自分の宝」（自分の親しみのある人、食べ物、建物、風景、体験など）やりたい講座、興味が持てる講座や活動を一緒に考え実行したいと思っている。

日時	場所	参加者数	内容
3 1、4・5	公民館	5	・プロジェクト二年目の計画について(県、院生2、公2)
4・2 4	〃	6	・新栄会畝山会長、県、院生2、公2 新栄会の事業にプロジェクト事業を加味する方向で打ち合わせ
元年5・1 0	〃		・中学生総合学習への参加について、中学校と調整
6・1 1	中学校	8	・中学校と協働プロジェクト二年目の取り組みについて打ち合わせ、 (中学3、県、院生3、公2)
7・1 7	〃	6	・中学校と総合学習関係で打ち合わせ(中2、県、院生2、公1)
8・1	〃	9	・中学生3、先生1、県、院生3、公1、具体的活動について
8・2 2	公民館	9	・中学生による短編映画制作の具現化、台本づくり、ロケ日程等 (中学生4、県、院生2、公2)
8・3 1	〃	8	・台本仕上げ、一部試写撮り
9・5	〃	8	・ロケ等の具体的計画づくり、(中学生5、県、新栄会、県、公)
9・1 1	中学校	1	・中学校の総合学習風景の撮影
9・1 5	小学校校庭	多数	・ロケ撮影会実施、(地区民、中学生、小学生、エキストラ多数)
9・2 2	地区内	5	・故郷に帰省してきた主人公のロケシーン多数撮影
1 0・2 5	中学校	6	・中学校総合学習で短編映画のプロセスについての発表会を見学
1 1・1 6	公民館	4	・短編映画の流れ、最終検証チェック(県、中3、公2)
1 1・2 4	小学校講堂	来場多数	・地区公民館まつり会場で2回の上映会実施、ローカルテレビに特集 で放映される
2 年1・8	公民館	6	・県公連プロジェクト報告会に向けて流れ等の最終チェック、
1・3 0	岡山	5	・協働プロジェクト成果発表会

一年目の取り組み

その1. 院生と協働して地域課題の洗い出しの結果

- ・人口減少に伴う少子化高齢化問題
- ・ふるさとへの愛着

以上2点を課題として取り組むこととした

そのために・・・具体的な取り組みとして「ふるさとのお宝探検隊」を実施し、子どもたちの目線で「自分の宝・地域の宝」として子どもたちに親しみのあるものがたくさんあることに気がついた。

大人目線の故郷の宝物に加え、子ども目線の宝物が故郷への愛着に繋がることを改めて知ることとなった。

2年目の取り組み

○子どもたちが生まれ育った故郷に・・・

- ・興味・関心をもつ
- ・自分に親しみのあるものがたくさんあることに気づく
- ・自分の故郷を大切に思う心情を育み、ふるさとのために何かしたいという気持ちを社会の中で、実現できる姿を中学生目線で短編映画を製作、映像を通して次代に繋げる仕組みを実施、運営することにした。

成果

・この度の学生協働プロジェクトの中で院生の新鮮な発想、アイデアが活かされて、「子ども目線」「生まれ育った故郷に興味・関心を持つ」子どもをキーワードに取り組んだ。

- ① 大人目線の故郷の自慢(宝物)に加え、子ども目線の自慢(宝物)が故郷への愛着に繋がることを改めて知ることが出来た。学校と地域の連携を通して、地域の子どもたちの成長する姿を想像していく事もこれからの地域社会の活性化に繋がる事を教えてくれた。
- ② 子どもたちが地域に関わる中で、自らの考えや行動する力・故郷愛を育み、次代の地域活性化、人材育成に繋がること改めて知ることとなった。
- ③ 公民館が担う役割は、子どもたちが今以上に地域での存在感・活躍のできる、「もっと自慢できる故郷」「ずーと優しい故郷」、づくりを継続していきたいと考えている。